

令和 7 年度 浜松学院大学附属幼稚園 自己評価・学校評価書

教育目標 「知恵と力を出し合って生き生きと遊べる子」

1. 本年度の重点目標
 - ・ 保育のプロセスの質の向上を目指す「齋藤公子さくらんぼリズム遊びからの学びと実践」
2. 自己評価及び学校評価

総合評価 B (A～D 4段階評価)

評価項目	自己評価結果	具体的な取り組み及び改善策
保育の計画性 ・ 教育理念や教育目標について理解に努めているか ・ 園の教育課程を理解し、それに基づいて保育の計画を立てているか ・ 指導計画は幼児の発達に即して幼児期にふさわしい生活を展開できるように具体的に作成しているか ・ 幼児の発達や生活を見通した環境の構成をしているか	B	・ 「運動会」について、種目により高校体育館での開催と別日幼稚園内開催に分けて行った。計画及び準備を丁寧に行い、園児及び保育者にとっては満足のいく内容で実践できた。 ・ 保護者からは概ね好評であったが、従前とは違うやり方に意見もあったので、園児の意欲や育ちの面から園の方針を丁寧に伝え、理解を得られるようにする必要がある。 ・ 日常保育のカリキュラムは、その年度の園児の育ちと、行事との兼ね合いを考慮して柔軟に対応していく必要がある。 ・ 送迎バスの送迎ルート上避難訓練を実践できなかった。引き続き、内容の見直し及び検討を行う。

評価項目	自己評価結果	具体的な取り組み及び改善策
・自分の保育についての評価・反省を次の保育にいかしているか		
評価委員の意見より ・ 付属幼稚園の独自のカリキュラムを土台としつつ、新たな活動内容・方法を積極的に取り入れている。一つ一つの体験が、着実に、年少から年中、そして年長へとつながり、子ども自身、そして保護者においても「成長を実感できる」保育を実践しており、共に育つ場を創っており渡を感じる。 ・ 運動会の運営では体育館での実施という新たな取り組みをしたが、事前準備及び当日運営においても細心の注意を払って実施し、中でも屋内ならではの演目の実施については、新たな可能性を拓く重要な取り組みと考える。 ・ 保護者参加の観点からは、天候に左右されないことへの好感や参観日の増加に関する様々な意見と思うが、スペースの関係から運動会の際に卒園児が訪問できなくなったことが残念だった。これまで卒園児の演目に、小学1年生のみならず6年生になってもかなりの人数が参加し、これも「会いに行きたい」と思われる園だからこそと思うが、卒園後も園とのつながりを維持する機会として、大切な役割を果たしていたように思う。なにか他の形で卒園児、保護者、友だちが出会えるような機会があればより良い。 ・ 子どもの年齢や発達段階、個々の性格を十分に理解したうえで、各クラスの保育・運営が行われている。 ・ 運動会では、高校の体育館を使用する初めての試みにもかかわらず、大きな混乱もなく円滑に運営しており、丁寧な準備と対応である。 ・ 運動会は付属幼稚園ならではの創作、子どもたちのこれまでの成長のアナウンス、親子でのふれ合いに感動した。 ・ 要支援児の対応ができています。 ・ 登降園徒歩コースでは、園児の様々な表れに適切な対応ができています。		
保育の実践力（環境設定・幼児への対応） ・ 個々の幼児の発達の姿や課題について、見通しをもって理解しているか	A	・ 好きな遊びの環境設定を様々な観点から考え、1人ひとりの子どもが過ごしやすい環境を考えるよう意識したがまだ十分とは言えない。預かり保育時間も含め

評価項目	自己評価結果	具体的な取り組み及び改善策
・ 幼児同士のかかわりの姿を捉え、その中での育ちを理解しているか ・ 幼児の姿を多面的に捉えるように心がけているか ・ 幼児の思いや考えに共感しながら、幼児と一緒に活動しているか ・ 幼児の心を傷つけたり、人権を無視したりする言葉や態度、かかわり方をしていないか ・ クラスに関係なく、その場にいた保育者が適切な言葉がけや対応をするように心がけているか ・ 幼児のことについて保育者同士で話し合い、共通理解をするように心がけているか		て、好きな遊び時間を落ち着いて過ごすことができると、安定した集団活動につながる。 ・ 聴覚過敏、新奇場面の苦手さ、同学年での個々の成長の違い等に個別に対応することで、園児個人やクラス集団が過ごしやすくなる。 ・ 危機管理の観点から、防災環境の点検及び防災設備の確認と補充を行った。有事に備え、確認点検等を継続する。
評価委員の意見より ・ カリキュラムの実現に伴い、実践においても様々な工夫をしている。環境設定においては、子どもの感覚、特性に応じた配慮という課題についても、子どもの姿に応じながら検討しており、非常に重要な取り組みである。こうした感覚特性に応じた環境構成は、保育現場において今後さらに理解と実践の蓄積が求められる課題でもあり、付属幼稚園の取り組みには重要な意義がある。 ・ 日常保育環境において、あるクラスで子どもの興味関心を部屋の装飾に繋げられ、その中で遊びを楽しむ、そしてさらに作っていく、という		

評価項目	自己評価結果	具体的な取り組み及び改善策
クラスの世界づくりを実践していた。子どもの思いと保育者の思いとで作られていく過程が、子どもの主体性を尊重しさらに深める環境構成として意義のある実践であると感じた。 ・子どもたち一人ひとりの考えや意見を尊重し、日々の保育やクラス活動に反映されている。 ・子どもたちは、担任以外の保育者にも温かく見守られており、安心感がある。 ・今後も、個々の成長や性格、感じ方の違いを大切にしながら、友達との関わりや集団活動を通じて社会性を育める環境づくりを期待する。 ・複数の園児に順次対応してたり、場面に応じて安心安全な対応ができています。		
教師の能力（適性・良識・チーム意識） ・教職員全員で一つのチームであることを意識しているか ・他の意見を素直な気持ちで聞き、自分の意見も述べるよう努めているか ・幼児と一緒に生活を創りだすことを楽しいと感じているか	A	・学年間や学年を越えて、保育について話をしたり、保育を見合ったりする機会を持つように心掛けた ・要支援児が増えているので、それに合った教員配置とチーム保育をする。 ・職員同士の情報の共有や共通理解をさらに深めたい。 ・各保育者が、現担当だけでなくお互いに声を掛け合い保育に臨んでいる。他保育者の取り組みの姿も互いの刺激につながっている。 ・若手保育者が徐々に育ってきており、責任を持って保育にあたっている。園全体の刺激につながって欲しい。
評価委員の意見より ・園を訪問した際の保育者とのやりとりを通して、保育者同士のコミュニケーションが円滑であり、また相互の学び合いに非常に積極的であることを感じる。ベテランの実践知はもちろんのこと、若手ならではの良さも活かされていて、担任や学年の枠を超えて、園全体で子どもたちの育ちを支えようとする風土が感じられる。そうした保育者のあり方が、子どもたちにとっても、保育者との関わりを通して、信頼、安心、憧れなど様々な育ちへとつながっているのではないかと。		

評価項目	自己評価結果	具体的な取り組み及び改善策
・ 保育者の間で日頃から前向きで活発なコミュニケーションが図られており、良好な連携が感じられる。 ・ 保育者の朗らかな会話や笑顔が園全体の明るい雰囲気を生み、子どもや保護者の安心感にもつながっていると感じる。 ・ 特定の子どもに対し支援が必要な場面でも、複数の保育者が状況に応じて柔軟に対応されており、大変心強く感じる。今後も良好な協力関係を大切にしてほしい。 ・ 園行事（餅つき）について、ボランティアによる様々な担当場所がある（外での炊き出し等）ので、それぞれに関心を持たせる保育ができると良い。		
保護者への対応 ・ 保護者に対し、幼児や自分の保育のことをわかりやすく話し、保護者との信頼関係を築くよう努めているか ・ 保護者に個々の幼児の様子を伝える工夫をしているか ・ 保護者からの相談や要望には心を開いて、よく話を聞くように心がけているか ・ 電話は、相手が見えないために誤解が生じやすいことを心に留め、簡潔にわかりやすく話すことを心がけているか ・ 保護者からクレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長や教頭	A	・ 保育者が、普段から園児だけでなく保護者にも明るく対応することを心掛けた。 ・ 保護者対応は、迅速に、平等に、丁寧にすることを心掛けた。 ・ クレーム相談に対しては、できるだけ保護者面談を行い、主訴を十分理解して対応した。保護者の理解を得られたと感じたケースがほとんどであったが、時には、完全に理解を得られていなかったと、後で感じることもあった。面談時だけでなく、事後フォローも必要である。

評価項目	自己評価結果	具体的な取り組み及び改善策
に報告、連絡、相談をしているか		
評価委員の意見より ・保護者からの相談に対して、丁寧かつ専門的な対応をしていると感じる。園についての心配な発言があった際にも、園生活の詳細な様子、その背景、また子どもの育ちとして良い面を持っていることなど、専門性を持って、かつ、保護者を支える言葉をもらい、まさに家庭支援として重要な役割を担っていると感じる。 ・保護者アンケートの結果においても、子どもの様子、園の保育者の対応など、全般非常に評価が高く、信頼関係を構築されていることがうかがえる。 ・「付属幼稚園では、(少し心配なところがあった子どもも) あたたかく受け入れていただけた」など、安心して預けられていることがうかがわれた。 ・担任以外の保育者からも子どもの園での様子を伺う機会があり、園全体で一人ひとりを見守っている安心感がある。こうしたきめ細やかな関わりは付属幼稚園の大きな強みであり、今後も継続してほしい。 ・保護者からの連絡や相談にも迅速かつ丁寧に対応している。 ・昔に比べ、保護者に丁寧に対応していると実感する。 ・保護者からの質問等に対して、てきぱきと対応している。		
地域との連携・地域資源の活用 ・地域の自然や主な施設の場所、交通機関、行事などについて理解するよう努めているか ・小学校の教育内容について理解するよう努めているか	C	・要支援児対応について、今年度は浜松市保育所等巡回事業の利用を日程調整等ができず見送った。令和8年度は、少人数でも実施したい。 ・当園と連携が必要な児童発達支援事業所が多数にわたっている。各事業所の特徴を把握して、該当児に合わせた情報と支援方法の共有が必要である。 ・城北小学校1年生との交流ができたことは良かった。小学校の先生方もお忙しい

評価項目	自己評価結果	具体的な取り組み及び改善策
・子育て支援や地域開放について、教職員で話をするようにしているか		と思うが、積極的にアピールしていきたい。
評価委員の意見より ・地域連携について、まずは近隣の小・中・高校や付属校など様々な連携をはかっており、幅広い世代の子ども達が出会う場を創出している。子どもたちも、大人を含めいろいろな人たちと出会うことに抵抗がないように感じるのは、普段の取り組みあつてのことと思う。 ・異年齢交流の機会を積極的に設けている点は高く評価できる。 ・園が課題として挙げている発達支援機関等との連携について、今後の充実を期待する。 ・教育実習生や地域の中高生の受け入れ、城北小学校 1 年生との交流など、地域に開かれた多様な活動が行われており、大変意義深い取り組みである。 ・例えばさらなる活動の一案として、地域の方々から伝統遊びや茶道などの文化を学ぶ機会や、浜松の地場産業である織物に触れる体験などもよいのではないか。 ・コース担任の保育者には、知る限りの地域のことをお話しさせていただいる。		
研修参加 ・研修会や園内研修には自己課題をもって進んで参加しているか ・研修会や園内研修では積極的に発言し、自己課題の解決に取り組んでいるか ・保育者同士の協力・連携に関する研修・自己研究を行っているか	B	・夏季休暇中の研修に自ら積極的に参加できた。更に、研修内容を保育に活かすことができた。 ・保育者全員でリズム遊び研修を受けることができ、共通の学びを得られたことが良かった。保護者には協力を仰ぎ預かり保育中止としたが、必要であれば今後も継続できると良い。 ・研修や自己研鑽で得た知識を、保育実戦で発揮できる保育力をつけることが、質の向上につながる。

評価項目	自己評価結果	具体的な取り組み及び改善策
・保護者への対応に関する研修・自己研究を行っているか		・保護者対応についての研修には、各自の希望で研修を受けている。自己研修としては、園内での話し合いと情報共有を積み重ね、様々な事例を知っておくことも大切だと思う。
評価委員の意見より ・研修会への参加など、積極的に取り組まれている。園内で積み重ねられている実践や研修の成果について、学会や研修会、実践報告等を通して外部に発信する機会を設けることも、今後の専門性向上につながると考える。 ・子育て家庭を取り巻く環境や支援のあり方が多様化する中、今後も時代の変化に応じた保育の工夫や改善を継続していただきたい。 ・リズム遊びに関する研修を受講されたことも、大変意義深い取り組みだと感じた。 ・引き続き幅広い分野で積極的に学びを深め、その成果を日々の保育や子どもたちの成長に還元することを期待する。 ・今のままで伸ばしていったほしい。 ・どの保育者にも卒園した園児のことを忘れずに覚えてくれていることが素晴らしい。		
保護者アンケート ・別紙 保護者アンケート結果報告参照	A	・暖かい言葉を多くいただき、モチベーションに繋がっている。 ・アプリ配信や行事案内配信については、意見を真摯に受け止め改善していかなければならない。 ・保護者の意見や指摘については、その都度、事が起きた時に対応しているが、しきれていない感がある。個別に丁寧に対応し、問題を最小限に抑えたい。 ・担任ではない教職員が声をかけてくれるというコメントがあり、園全体で子ども達を見守っている事を保護者が感じてくれている。今後も率先してやっていきたい。

評価項目	自己評価結果	具体的な取り組み及び改善策
		・運動会及び大型積み木挑戦会については、意見を読み込み、改善していく。 ・アンケート内容は、保護者の思いのごく一部であると捉える。園としての教育方針もしっかりと持ち、伝えていく姿勢を持ち続ける。
評価委員の意見より ・回答率が 96.4%と非常に高く、また各項目においても肯定的な回答が大多数を占めていることから、園の教育・保育に対する保護者の信頼と満足度の高さが分かる。園長が保護者通信で発信していた「子どもも、保護者も、先生も、たのしい幼稚園」という思いが、日々の実践を通して実現していることの表れであると感じる。 ・一方で、少数ながら改善を求める意見も見られるが、こうした意見に対しても、園としての考えや方針を明示し、具体的な対応や改善策を丁寧に示していることは、非常に重要である。すべての意見や要望に応えることは難しいとしても、一つ一つの意見を受け止め、園としての考えを伝えていく姿勢は、保護者との信頼関係を築く上で大切なことであり、高く評価できる。 ・行事のたびに、これまでの取り組みや保護者の意見を踏まえて改善や工夫が重ねている様子がうかがえ、保育者の日々の尽力を感じている。 ・アプリ配信とクラス通信について、内容が重複している時がある一方で、細かな点に違いがある場合もあり、確認に迷うことがある。それぞれの連絡手段の特徴を生かしながら、情報の整理や使い分けを工夫すると、保護者にとってさらに分かりやすくなる。 ・担任保育者だけでなくたくさんの保育者に声をかけていただいているとの意見に同感。 ・要支援児をよく理解できていて、思いやりがあると思う。 ・保育者はよく動いている。		

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

保育のプロセスの 質の向上 「齋藤公子 さくらんぼリズム遊び からの学びと実践」	・ 保育者全員で同時にリズムあそび研修を受けたことで、職員間で共通理解できていなかったことがはっきりし、共通理解が進んだ。 ・ 研修後の2学期から、具体的な項目の選択実践ができたことは、今後も継続していくうえで大きな1歩となった。 ・ リズムあそびの意義を改めて実感でき、大切に残しておきたいカリキュラムだと分かった。 ・ 今後、どうステップアップしていくのか？どう受け継いでいくのか？リズム遊び実践の具体策は？等々課題をもって取り組みたい。 ・ 保育者の本気の動きや生き生きした取り組みが子ども達への大きな刺激になっていることを感じる。 ・ 保護者へのリズムあそび活動の理解促進にもつながった。
---	---

5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
園児確保	・ 教職員全員、園全体での共通意識として話し合い、対応する。 ・ 未就園児活動の回数を増やす、バラエティーに富んだ内容の提供をする。 ・ 未就園児保護者へ、5年保育（つくし組）の周知を確実に行う。 ・ 園内施設的美観確保、及び清潔確保を行う。
要支援児及び家庭支援の充実	・ 要支援児だけでなく、支援が必要な家庭が年々増えていることを鑑み、保護者への対応や支援の仕方を保育者が学び、実践する。 ・ 子育ての経験がない保育者は経験保育者と相談しながら、園全体で保護者支援体制を構築できるよ

	うにする。 ・ 未就園児家庭保護者の子育て相談の場を作り、周知する。
保育のプロセスの質の向上	・ 「リズム遊びからの実践と学び」に引き続き取り組み、確かなものにする。 ・ 付属幼稚園の重要な活動の一つとして位置づける。

6 評価委員の意見総括

・ 付属幼稚園では、長年にわたり大切にされてきた保育の理念や実践を継承しながら、子どもたちの姿や社会の変化に応じて、新たな取り組みにも積極的に挑戦していると感じる。特に、子ども一人ひとりの思いや育ちを大切にし、保育者が共に考え、学び合いながら保育を創っていく姿勢は、付属幼稚園の大きな特色であり、強みであると考え。こうした実践を今後も大切に継承し、さらに発展させていくことを期待している。

・ 一保護者として、子どもの育ちを共に喜び、また悩みや不安にも寄り添ってもらいながら、安心して子どもを通わせることができたことに、心より感謝している。子どもだけでなく、保護者にとっても共に育ち、支えられる場であったと感じている。これからも、子どもたち、保護者、そして保育者にとって、温かく、豊かな育ちの場であり続けることを願っている。

・ 少子化が進む中、園の特色ある教育や温かな雰囲気、地域の子育て世帯に広く知っていただくことが、今後ますます大切になるのではないかと感じる。

・ 現在もホームページや Instagram を通じて園生活の様子を積極的に発信しているが、両者の連携をよりわかりやすくしたり、日々の活動紹介に加えて、「遊びを通して育まれる力」や「保育者の関わり」など、園の教育方針や魅力が伝わる内容を充実させたりすることも、一つの方法ではないか。

・ アンケート等を通じて在園保護者が感じている園の魅力や、入園時に重視した点などを把握し、今後の情報発信に生かしていくことも有意義である。

- ・園がこれまで大切にしてきた教育の良さが、より多くの家庭に伝わり、入園を検討するきっかけにつながることを期待している。
- ・時代の流れと共に教育の在り方も変わり、保育者も苦勞されていると実感する。
- ・歩きコースの人数が激減しており、そこでしか学べない事や楽しい事が体験できず残念に思う。安全確認が増え、丁寧な指導をしている。。
- ・要支援児童が多くなっているので、適切な援助をする環境を充実させてほしい。